

## ○いじめ・不登校の未然防止に向けた望ましい 人間関係づくりを進める取組の充実



### ①自己有用感の育成・居場所づくりにつながる教育活動の充実～不登校の未然防止～

管内では、児童生徒の自己有用感の育成のため、一人一人のよさを認める声かけを継続的に行うなど、一人一人の居場所づくりを進めていただきました。今後も、児童生徒が安心して学校生活を送れるように、児童生徒の声に耳を傾け、考えや行動を認めたり、教師の思いをていねいに伝えたりしながら、児童生徒に寄り添った指導の充実をお願いします。

### ②道徳の時間の充実～「考えさせたいこと・学ばせたいこと」を明確にした授業づくり～

今年度の計画訪問では小学校17授業、中学校11授業と、積極的に道徳の授業を公開していただきました。多くの授業で、児童生徒から多様な意見を引き出したり、自分事として考えられるように役割演技を取り入れたりする工夫が見られました。しかし、「児童生徒が自分の考えを十分に伝え合い、ねらいとなる道徳的価値を理解する」という点について課題も見られました。「価値観」と「児童生徒観」を明確にもつことにより、ねらいに迫る児童生徒の発言を捉え、つなげたり深めたりする支援をより充実させましょう。



## ○健やかな心身の育成に向けた取組の充実

### ①発達段階に応じた指導の工夫

安全面では、危険回避能力の育成に向けた指導の工夫が見られました。例えば、予告なしの地震避難訓練を実施した小学校では、身を守るための視点を伝え、児童が自身の避難行動を振り返る時間をもちました。また、生徒会による自転車安全点検を実施した中学校では、上級生が下級生に点検のポイントを伝えながら自転車点検を行いました。児童生徒の主体性を意識した教師の働きかけにより、どのような点に注意して身を守ればよいかを児童生徒自身が考える機会となっています。今後も発達段階を踏まえ、児童生徒が主体的に考える場の設定をお願いします。

### ②児童生徒の実態に応じた年間計画の作成と見直し

食に関する指導の「学年別年間指導計画」が整備された学校が増えました。学級活動や家庭科などの授業では、栄養教諭や学校栄養職員の参画により、授業のねらいに迫り、児童生徒が楽しく学ぶ姿が見られました。栄養教諭・学校栄養職員とのTTが有効な指導事項については、食に関する指導の「学年別年間指導計画」に「栄養教諭とのTT」と明記するなどして指導が継続できるようにしましょう。

## ○特別支援教育の充実

### ①個別のニーズや困り感に応じた支援の充実

管内の個別の指導計画の作成率は、97%を超え、特に、多くの幼稚園で作成を進めていただいたことが今年度の成果として挙げられます。計画は、記入者が今年度中に見直し、一人一人の支援方法についての成果や課題を記録・保存しておくようにしましょう。年度初めの環境の変化により、不安定になりがちな幼児児童生徒も、昨年度までの成果を活用した指導を継続して行うことで、安心して生活を送ることができます。

### ②気になる幼児児童生徒についての情報の共有と専門的な機関との連携

今年度も、各園・学校では特別支援に係る校内委員会を設置し、発達障害を含む障害のある幼児児童生徒の実態把握や支援内容の把握に努めていただきました。校内委員会で支援の対象になった児童等の支援内容については、学校内の教職員で共通理解を図りましょう。そして、定期的に外部の専門家等の助言も活用しつつ支援を行い、評価を行いましょう。

尚、今年度の専門相談員・専門アドバイザーの相談件数は、1月末現在で延べ 854 件（昨年度の3月までとほぼ同数）でした。来年度も、検査依頼や個別相談、ケース会議や校内研修等で積極的にご活用ください。